

教育大綱 基本方針一 1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

I. 学校教育目標

じぶんで なかまと ふるさとから 学ぶ 夢豊かに しあわせに
～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、なかまと共に、自ら取り組む子の育成～

2. 研究主題

関小学校研究主題

やってみたい

～子どもも先生も主体的にチャレンジする授業・学級・学校づくり～

3. 研究主題設定の理由

①児童の実態

本校は、ほとんどの児童が就学前から同じ集団で過ごし、成長してきていることもあり、休み時間になると同学年だけではなく、異学年の子とも仲良く遊ぶ姿が見られる。しかし、同じ集団で過ごしてきたことにより、人間関係が固定化されており、自分に対しても友だちに対しても、これまでの見方や考え方から抜け出せない傾向が見られる。

2023年度から、「ととのえる」を合言葉に、「時間(チャイム等の時間の厳守)」「言葉(あいさつ・返事・言葉遣い)」「整頓(掃除・ロッカーや靴箱等身の回りのこと)」などを重点に置き、学校全体で、学習規律や学習環境整備に努め、よりよい学校生活に向けて取り組みを進めている。

児童の多くは、学習に対して前向きで、教師の発問に対して意欲的に反応したり、活動に取り組んだりすることができる。一方で、教科や活動の内容によっては、「わからない」ことを理由に学習に対する意欲が上がらず、授業中に集中していないかったり、前向きに取り組めなかったりする児童もいる。また、学力差の二極化が見られ、理解度や取り組む速さにも大きな差がある。

そのため、本年度の研究主題を「やってみたい ～子どもも先生も主体的にチャレンジする授業・学級・学校づくり～」とし、児童の主体性を高めるための研究を進めることとした。また、児童の主体性を高めるためには、教師自身が主体性を持って授業づくりや学級づくりに取り組む必要があると考え、並行して教師の主体性を高めることにも取り組んでいく。

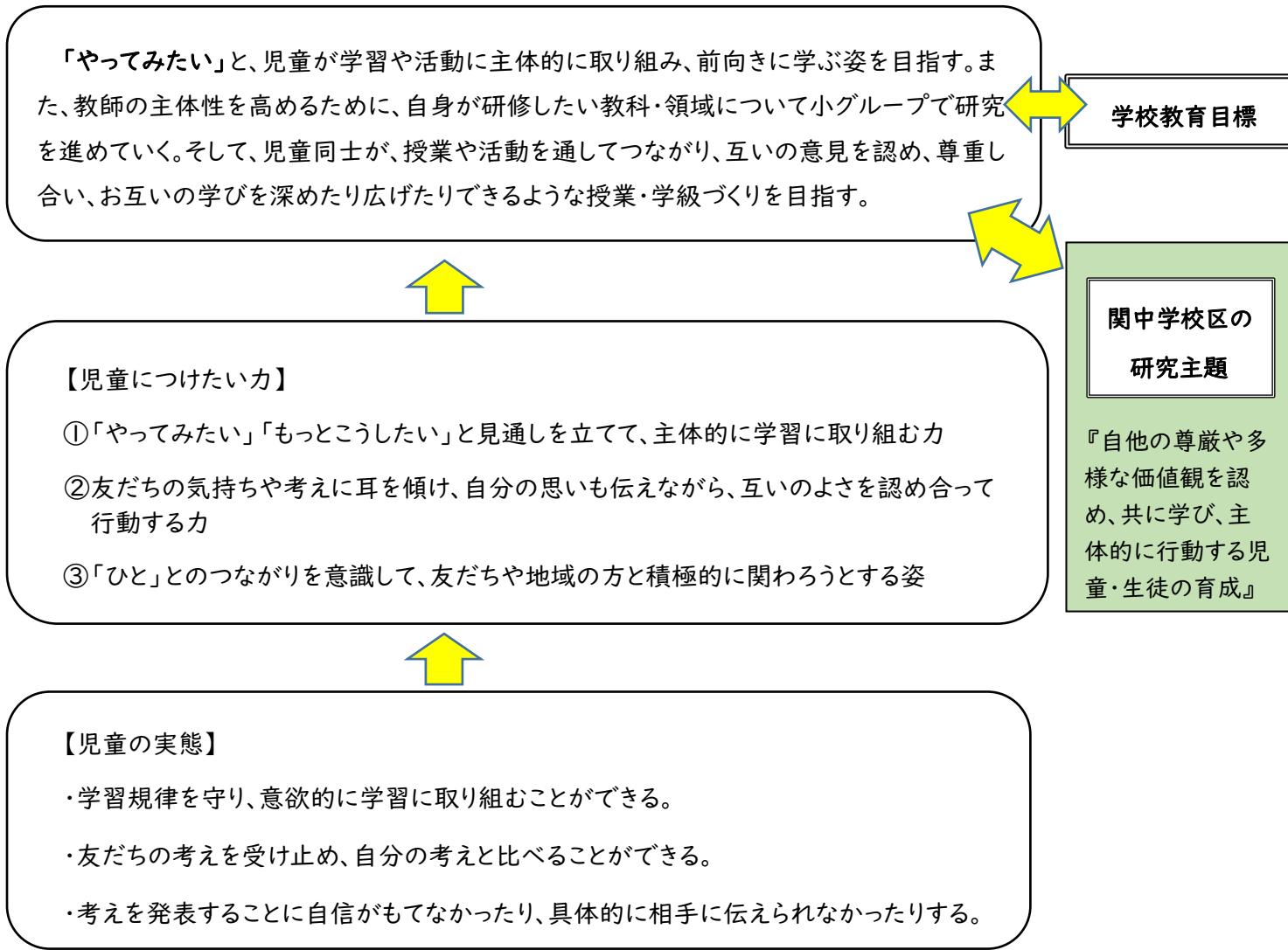
②これまでの取組、これまでの成果・課題

昨年度は、研究領域を全教科・全領域・自立活動に設定し、「話したい ききたい 書きたい ~自分の思いを表現し、「ひと」とつながる授業・学級づくり～」を目指して研究を進めてきた。

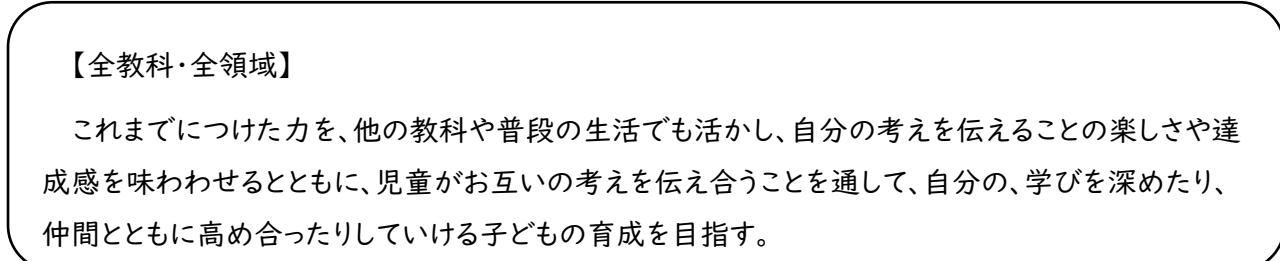
単元や授業の初めに、「教材を通してどのような力をつけるのか」や「この授業でどのようなことを学ぶのか」を明確にし、学習の流れを明示することによって、見通しを持って、主体的に学ぼうとする態度につなげることができた。また、児童は、自分たちがどんな活動をすれば単元のめあてを達成できるかを考える姿が見られるようになるとともに、学習の目的が明確になることで「やってみたい」という姿に近づくことができた。特別支援学級においては、児童が日常生活で生かすことができる力をつけること及び児童と原学級とのつながりを意識することを大切に、自立活動を進めることができた。

昨年度の成果として、児童、教師の「やってみたい」という気持ちは感じられるようになった。一方で、「話すことについてや、「聞くことについての課題は残っている。そのため、学校全体で「話す」「聞くことについての各学年別の目標を設定し、系統的に力をつける必要がある。また、児童の主体性を高めるためには、まず教師の主体性を高めることが不可欠であると考えた。

4. 研究主題について



5. 研究領域



6. 研究構想図

じぶんで なかまと ふるさとから 学ぶ 夢豊かに しあわせに

～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、なかまと共に、自ら取り組む子の育成～

めざす子どもの姿

- ・「やってみたい」「もっとこうしたい」と見通しを立てて、主体的に学習に取り組む姿
- ・友だちの気持ちや考えに耳を傾け、自分の思いも伝えながら、互いのよさを認め合って行動する姿
- ・「ひと」とのつながりを意識して、友だちや地域の方と積極的に関わろうとする姿

研究主題

やってみたい

～子どもも先生も主体的にチャレンジする授業・学級・学校づくり～

研究領域：全教科・全領域

学級づくり

なかまづくり

- 「ととのえる」を合言葉にした、学習規律や学習環境の整備
- 「読書タイム」による読書習慣の定着
- 互いの意見や思いを認め合う活動や人権教育の推進

授業づくり

国語・算数・自立活動

- 活動カードや単元計画による見通し
- 単元のゴールの明確化とそれに向かう単元計画の作成
- 目的に合った子ども同士の交流
- 教師の出場の見極め
- タブレット端末の積極的な活用

教師力の向上

- 研修班を中心に、教師同士で日々の授業を積極的に参観し、授業や学級づくりに関する技やスキルを学ぶ
- 「みんくる」の充実
- 研修だよりによる、教師の学ぶ意識の向上

【児童の実態】

- ・学習規律を守り、意欲的に学習に取り組むことができる。
- ・友だちの考えを受け止め、自分の考えと比べることができる。
- ・考えを発表することに自信がもてなかったり、具体的に相手に伝えられなかったりする。
- ・相手に対して意識を持って話をしたり、きいたりすることが苦手としている。

7. 具体的な取組

(1) 授業づくり

- ・活動カードや単元計画による見通しを持つ活動
- ・単元でつけるたい力を明確にした単元構想や言語活動の設定
- ・つけたい力に迫るためのめあての設定、めあてに対するふりかえりの活動の充実
- ・目的を明確化させた上で児童同士の交流を取り入れた授業づくり
- ・自分の立場が分かったり、児童の言葉が残ったりするような板書の工夫
- ・発達段階に応じた話す力、きく力の質を向上させる(聞く→聴く→訊く)
- ・学校図書館と連携した絵本等を活用した取り組みを強化
- ・朝学を活用して、漢字や計算等の帯学習に取り組む
- ・学習用語の意味をおさえ、様々な場面で活用する
- ・他教科との学習のつながりを意識した授業・単元づくりをする
- ・「みんなく」を通して、日々の授業で使えるスキルや技の共有

(2) 学習の基盤づくり

家庭学習、自主学習

- ・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習への理解と協力を呼びかける
- ・家庭学習の内容として、「読み・書き・計算」と「自主学習」を取り入れる
- ・自主学習については、「自主学習掲示コーナー」を設け、手本となる自主学習を紹介する

読書活動

- ・毎週水曜日の「読書タイム」や日々の読書活動を通して、本への興味関心を広げる
- ・様々な教科の単元に合わせて、教室または教室前廊下に「この本、読んでみようコーナー」を設置

学習規律の定着

- ・学習に必要な持ち物、話し方・きき方など学習規律の統一と定着

(3) なかまづくり

- ・「見つめる子」を中心とした学級づくり
- ・なかまづくりを活かした学級づくり・支援を必要とする子どもたちの共通理解
- ・「見つめる子」レポートに取り組み、児童の背景を捉え、共有

(4) 教職員の力量を高めるために

- ・グループ別研修

教師自身が「学びたい」や「やってみたい」という意欲をもって研修に取り組むために、自身が学びたいと思う教科・領域の研修班で研修を進めていく。

長期休暇等を活かして、定期的に研修の成果や課題等をプレゼンテーション形式で発表し、教師同士が学び合う機会を設定する。

- ・みんなく(みんなの研修はみんなでつくる)の充実

教職員の「学びたい」「知りたい」を中心に据え、各自の実践等を語り合う時間を設定する。

年度当初に教職員一人ひとりに「学びたい」ことをきき、年間を通して研修会やみんなくで学んでいく。

- ・研修だよりの発行

定期的(週1・2回)に研修だよりを発行し、教職員同士がつながり合い、学び合えるよう、情報を発信していく。